



日本形成外科手術手技学会 News Letter

第17号 2022年7月11日発行
発行 日本形成外科手術手技学会 事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12
新宿ラムダックスビル 榑春恒社内
MAIL : jsitps@shunkosha.com

理事長からのご挨拶

日本形成外科手術手技学会 理事長 梶川明義（聖マリアンナ医科大学形成外科）

皆様からお認め頂き、27年目を迎えた本学会の理事長を拝命致しました聖マリアンナ医科大学形成外科の梶川明義です。私は、形成外科は手術技術が命と考えております。その意味で、本学会は形成外科の核心と言える学会ではないでしょうか。1996年に内視鏡研究会として始まった本学会ですが、内視鏡手術に留まらず、これまで形成外科全般の多くの新しい技術、術式が発表されて来ました。形成外科の手術は、結果が美しいのはもちろんですが、低侵襲であること、安全であることも重要で、これらが三位一体となることで、より良い手術となります。

また新しい手術手技も、「一子相伝」のように特定の施設の秘技としていたのでは、形成外科全体のレベルアップにつながりません。より多くの形成外科医がより良い手術手技を身につけてこそ、日本の形成外科のレベルアップにつながるものと考えます。本学会を介して、各施設のすばらしい手術手技が多くの形成外科医に伝わり、形成外科の手術レベルが向上し、医療における形成外科の地位向上につながれば、素晴らしいことと考えます。

新理事長として会員の皆様と力を合わせ、本学会と形成外科全体の発展のために精一杯頑張っていきたいと考えておりますので、皆様の暖かいご支援とご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

学術集会予定

第28回日本形成外科手術手技学会

会長：梶川 明義（聖マリアンナ医科大学形成外科）
会期：2023年3月4日（土） ※理事会は3月3日（金）予定
会場：ステーションコンファレンス川崎（川崎市）
テーマ：Game Changer を目指せ！突破！！
大会HP：<http://jsitps2023.umin.jp/>

第29回日本形成外科手術手技学会

会長：上村 哲司（佐賀大学医学部形成外科）
会期：2024年3月2日（土） ※理事会は3月1日（金）予定
会場：佐賀市内を予定

第30回日本形成外科手術手技学会

会長：鳥山 和宏（名古屋市立大学形成外科）
会期：2025年

第 27 回 日本形成外科手術手技学会 報告

会長 三川 信之（千葉大学大学院医学研究院形成外科学）

この度、第 27 回日本形成外科手術手技学会を、2022 年 2 月 19 日（土）の期日で千葉市幕張にて開催いたしました。開催形式は現地と web の併用によるハイブリッドといたしましたが、新型コロナウイルス（COVID-19）のオミクロン株による第 6 波が猛威を振るう中、会場にお越しいただきました 150 名を超える先生方、誠にありがとうございました。Web 視聴と合わせ計 600 名を超える過去最多人数となり、本学会会員の皆様にはもちろん、ご参加いただきました非会員の先生方にも深く感謝申し上げます。

さて、本学会のテーマは、「層を極める」でした。手術には解剖が大切であり、特に組織間の「層」は極めて重要です。「層」を誤ると手術が上手く行かないばかりか、血管や神経を損傷するなどの合併症が生じます。学会内では術中の剥離層に関するセッションなどを組み入れました。また岡崎会長の前回（第 26 回）同様、ほぼすべての口演をビデオ演題とし、実際の手術手技を目で見て学ぶ形式を継続いたしました。ビデオシンポジウムは基本手技を中心とする教育的カテゴリー、各領域のエキスパートの手技を供覧していただく応用的カテゴリー、渾身の一例などを呈示するフリーカテゴリーに分けました。

さらに今回、これからのビデオ時代に対応すべく、日形会との共同企画「魅力的な動画撮影-撮影法の基本から工夫、動画編集まで-」の特別シンポジウムを行いました。動画による表現法の理解と習得に役立ったのではないかと思います。そして一般演題より選ぶアワードセッションも加えた、すべてのカテゴリーの中からそれぞれに優秀演題賞を選出して表彰いたしました。一方、特別講演は NHK 総合「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演された銀座カリスマ・ママの白坂亜紀氏に「銀座の流儀」について、教育講演では千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学の池原譲教授が「病理工学研究—新しい低侵襲手術を実現するための羅針盤」についてご講演をお願いしました。いずれのご講演も非常に興味深いお話で、大変勉強になったと大きな反響がありました。

以上のように、1 日の学会としてはかなり盛り沢山の内容となりましたが、参加者の先生方には実りのある学会となり、喜んでいただけましたものと推測いたします。なお、会期後のオンデマンド配信では、リクエストの多さから配信期間を延長したくらいでした。こうして本学会を無事、成功裏に終えることができましたのは、参加者の皆様、教室員、協賛・サポートをいただいた企業・医療施設の皆様のお陰であり、重ねて厚く御礼申し上げます。最後になりますが COVID-19 が一日も早く収束し、来年以降本学会が現地で集まり、活発なディスカッションの行える平常が戻ることを祈念して、第 27 回の学会開催報告とさせていただきます。

第 28 回 日本形成外科手術手技学会 お知らせ

会長 梶川 明義（聖マリアンナ医科大学形成外科学教室）

この度、第 28 回 日本形成外科手術手技学会を主催させていただくことになりました聖マリアンナ医科大学形成外科の梶川明義です。この伝統ある学術集会を開催させていただくことになり、会員の皆様に感謝申し上げます。本学術集会を 2023 年 3 月 4 日（土曜日）、川崎駅直結の「ステーションコンファレンス川崎」で開催致します。会場は羽田空港、JR 駅からのアクセスに優れ、ご来場頂きやすいと思います。

形成外科は、その名称に臓器名を含まないことが示しますように、手術の技術を誇りとする外科です。これまで多くの形成外科医が、他科では行えないような高度な手術手技を用い、患者の QOL 向上のために治療を行って来ました。私は、患者にとってより低侵襲で、より安全で、より美しい結果を求めて形成外科の手術手技を高め、発表し合う本学会こそ、最もおもしろい学会であり、形成外科の核心ではないかと考えております。私たち形成外科医には「進取の精神」があります。「温故知新」という言葉がありますが、古い定型的手術法に囚われているだけでは進歩はありません。定型的手術手技を身につけた上で、柔軟な発想で新しい手術手技を開発し、これまで解決不可能とされた難問を「突破」する。これこそが形成外科医の醍醐味ではないでしょうか。

そこで第 28 回形成外科手術手技学会のテーマを、「Game Changer を目指せ！突破！！」とさせていただきます。学会員の皆様には、是非、日々の診療の中で難問を「突破」するためにこれまでに考案された新しい手術手技、「Game Changer を目指す」斬新な治療法をご発表頂き、明日の形成外科を作って頂きたいと思います。また、本学会では学会員の手術レベル向上のため、わかりやすい動画発表を推奨しております。一般的と思われる形成外科手術も、実際に見せてもらうと、施設により多くの違いがあることに驚かされます。「私たちの流儀」として各施設の手術手技をビデオでご発表頂き、お互いの手術法の改良に役立てて頂ければと考えております。

形成外科手術手技学会に参加すると多くの「気づき」があります。患者のために新しい技術を取り入れ、より良い形成外科治療を目指す多くの先生方のご参加を心よりお待ち申し上げます。